

陶芸

美術科 陶芸コース

TR テキストレポート科目 TW テキスト作品科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 GS 藝術学舎科目 WS Webスクーリング科目 必 必修科目 選必 選択必修科目 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2017年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

陶芸コース専門教育科目

STEP①

型、ろくろ。手をうごかして、土と技術の基本にふれる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
1年次						
陶芸演習 I-1	土による立体デッサン(制作)	TX	必	各2		陶芸をこれから学んでいくうえでの基本となる造形技法を学ぶ。土の持つ素材の特性をふまえながら、成形技法を習得する。また、石膏を用いた型成形にも取り組む。
陶芸演習 I-2	一汁一菜の器(プランニング/制作)	TX	必			
陶芸 I-1	日常の器/碗	S	必	1		電動ろくろの実習を行う。ろくろ成形に用いる道具づくりや基礎的な技法を学び、回転する陶土を自由に伸ばしながら思い通りの形をつくる。
陶芸 I-2	白い器/粉引	S	必	2		
陶芸 II-1	机上のオブジェ/ペーパーウェイト	S	必	1		石膏型を用いる「押型技法」と「鑄込み技法」を学ぶ。まず原型を石膏によって型取りし、その型を使って押型と鑄込みで制作する。実際の成形までの一連の実習を通して、この技法ならではの造形表現を学ぶ。
陶芸 II-2	食卓の風景/外型と内型	S	必	2		

STEP②

手びねり、タタラ。さまざまな技法、表現に触れ、感じたものをかたちにする。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次						
陶芸演習 II-1	花の器(制作)	TX	必	各2		手びねり技法による成形のトレーニングと技法を生かした作品制作を行う。手びねりによる造形の特性を知ることが主眼とし、器としての機能と自由な創造性との両者の視点から作品を制作する。
陶芸演習 II-2	ハレの日の器(プランニング/制作)	TX	必			
陶芸 III-1	機能からの発想/注ぐ器	S	必	1		手びねりによる作品制作を通じて、イメージと表現についての考察を深める。手びねりがもつ造形表現の可能性をさまざまなテーマに沿って学ぶ。
陶芸 III-2	幾何形態からの展開/手びねりの形と染付	S	必	2		
陶芸 IV-1	面による構成/箱	S	必	1		タタラ技法による造形実習を行い、素材の特性と形態について考察する。さらに手びねり技法との混在などを試み、タタラ技法の造形的表現の可能性を探る。
陶芸 IV-2	空間の演出/灯	S	必	2		

器とクレイワーク、イメージを形にしていく。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
3年次						
陶芸演習Ⅲ-1	[A]空間を造形する<制作> [B]加飾を考える<制作>	TX	必	各2		3年次では器とクレイワークの課題から各自が選択し、卒業制作前段階として自己の創造に對峙する。
陶芸演習Ⅲ-2	[A]公共空間への提案<プランニング> [B]琳派の模様<プランニング> [A]イメージとかたち、色<制作> [B]素材を探る<制作>	TX	必			
陶芸 V-1	発想の展開	S	必	各2		各自の制作スタンスを再確認し、器やクレイワークの課題のほか、各種技法や釉薬、焼成の技術を深め、より自由な発想と表現の展開を求めていく。また、信楽での学外スクーリングも選択可。
陶芸 V-2	器を再考する	S	必			
陶芸 V-3	技法研究／鑄込の展開	S	陶芸 V-3～V-6 より 選必 (2単位)	各1		
陶芸 V-4	技法研究／大物ロクロ	S				
陶芸 V-5	釉薬研究	S				
陶芸 V-6	産地研究／信楽	S				

制作のなかで、陶芸家としての自己表現の確立をめざす。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
4年次						
陶芸演習Ⅳ	自己表現の確立 (制作構想／ポートフォリオの作成)	TX	必	4		3年次での制作から、より深く自己の創造を追求する。教員と相談のうえ、素材と技法の出会いや作り手との密接な関わりの中から研究テーマを設定し、自己表現の確立をめざす。
卒業制作		S	必	6		専門教育の集大成として卒業制作にまとめる。各自でテーマを決め、マーケット作品(モデル作品)を前にして教員とのディスカッション・技法指導を進める。スクーリングにおいては、制作過程に応じ教員が個別指導にあたり、各自の主眼的表現の確立をめざす。

コースからのスクーリング開講に関するお知らせ

京都を中心に開講します。東京での開講はありません。